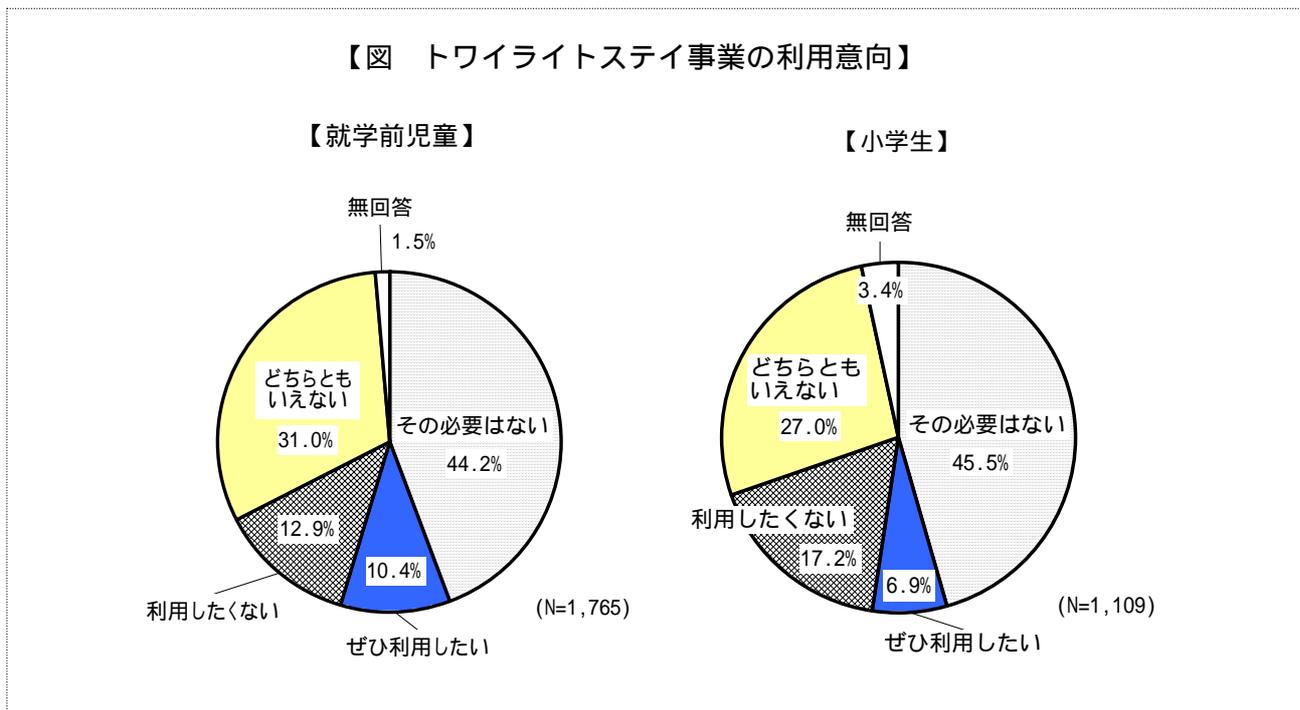


(3) トワイライトステイ事業の利用意向
(就学前 問19・小学生 問18)

【図 トワイライトステイ事業の利用意向】

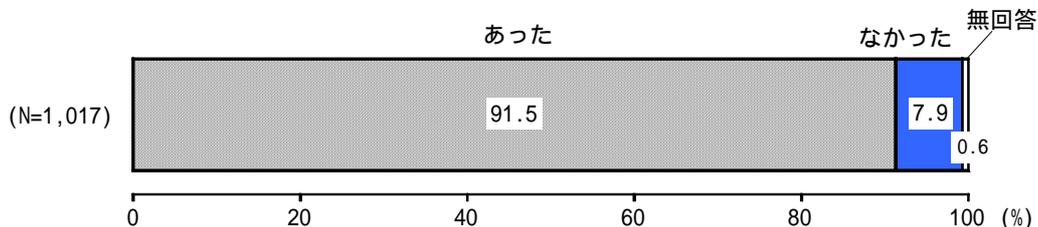


トワイライトステイ事業の利用意向をみると、「ぜひ利用したい」との回答は、就学前児童で10.4%、小学生で6.9%となっている。

(4) 病気・緊急時の対応と保育ニーズ

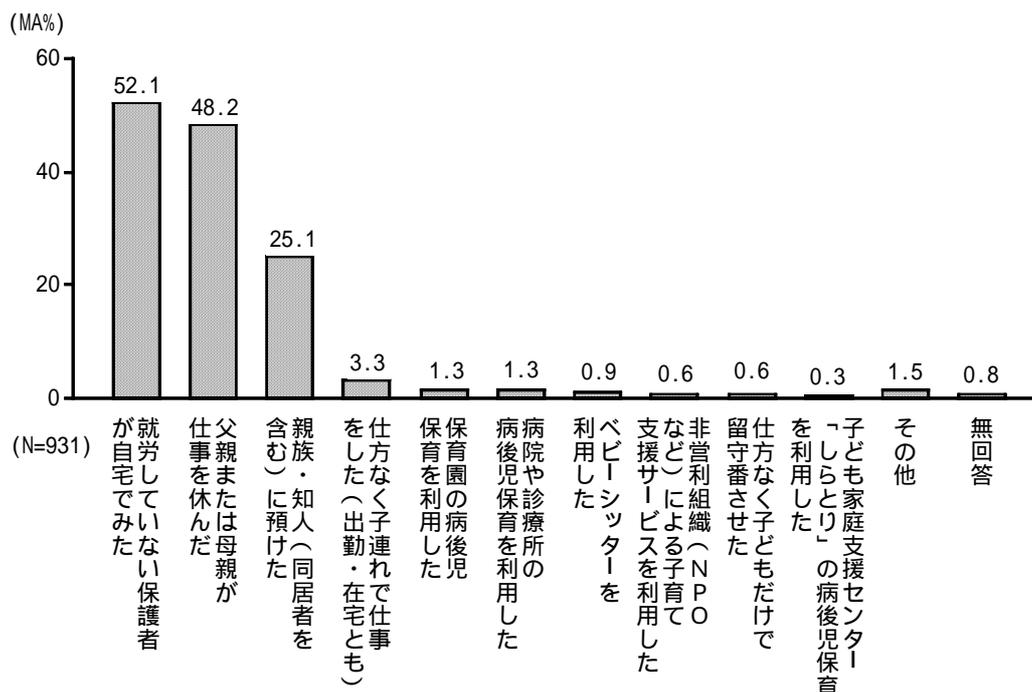
子どもが病気で保育施設を休んだ場合の対応とニーズ (就学前 問21)

【図 子どもが病気で保育施設を休まなければならなかったこと (就学前児童)】



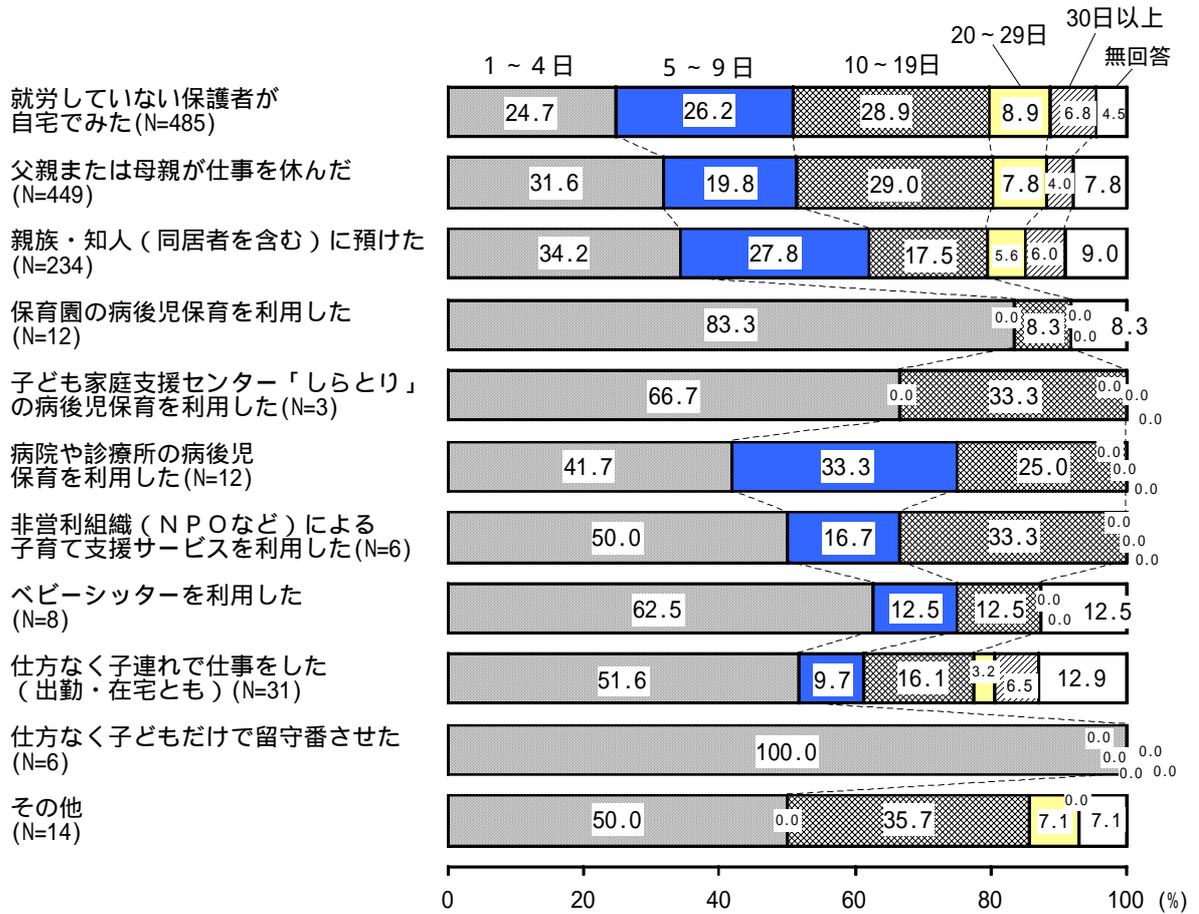
この1年間に子どもが病気で保育園などを休んだことの有無をたずねたところ、「あった」が91.5%を占めている。

【図 子どもが病気の時の対処方法 (就学前児童)】



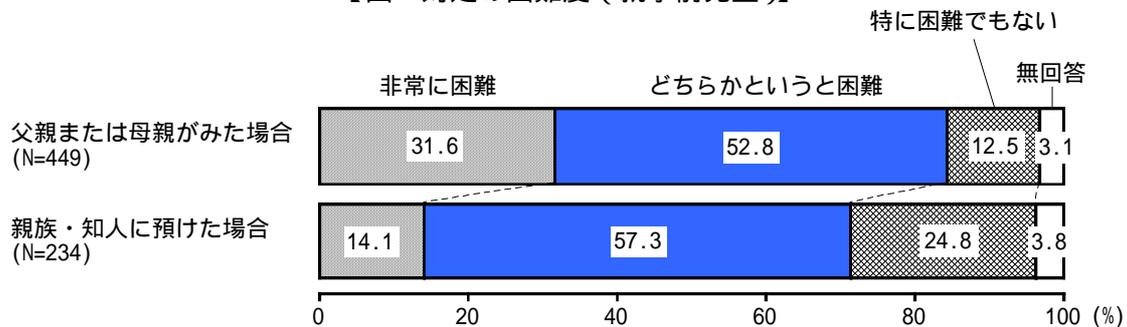
子どもが病気で保育所などを休んだ時の対処法をみると、「就労していない保護者が自宅のみた」が52.1%と最も多く、次いで「父親または母親が仕事を休んだ」(48.2%)、「親族・知人(同居者を含む)に預けた」(25.1%)となっている。

【図 子どもが病気で休まなければならなかった日数（就学前児童）】



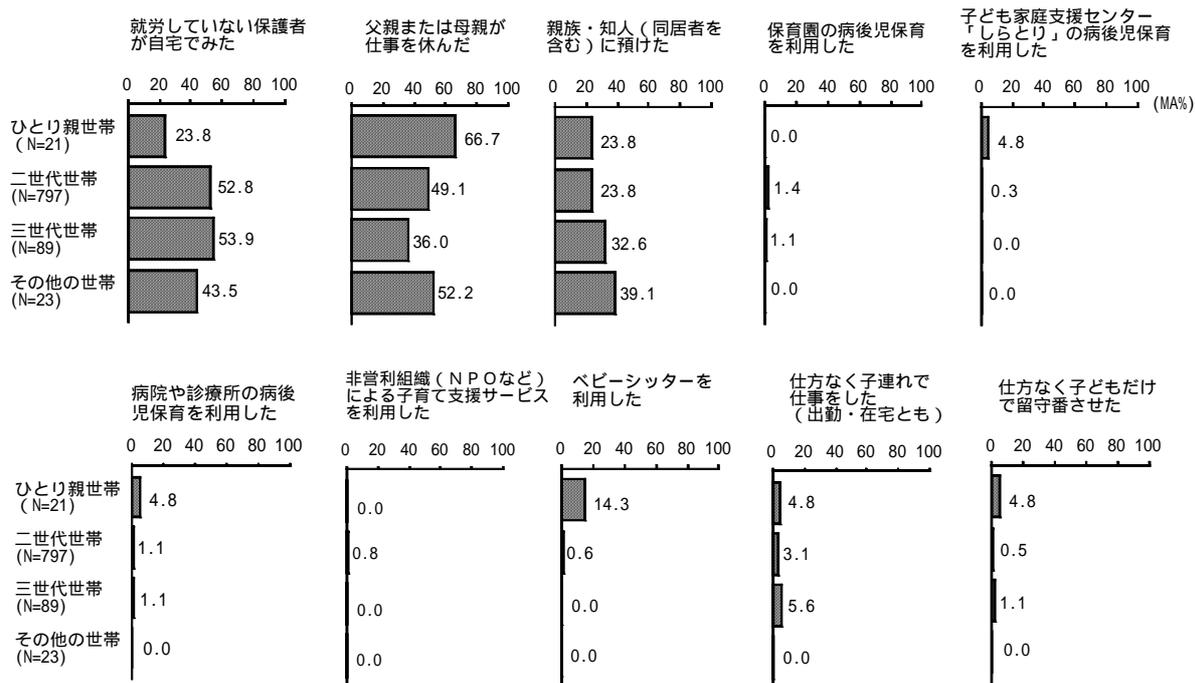
子どもが病気の時の対処方法別日数をみると、就労していない保護者が自宅のみ「10～19日」が最も多いが、そのほかは、いずれの場合も「1～4日」が最も多くなっている。

【図 対処の困難度（就学前児童）】



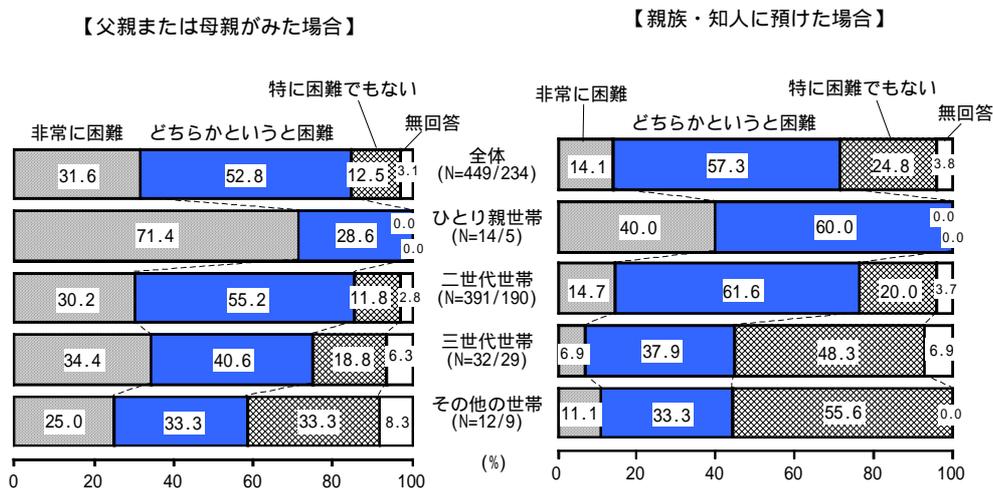
子どもが病気の時の困難度についてみると、「困難」（「非常に困難」「どちらかという困難」の合計）は、父親または母親のみ場合は84.4%を占め、親族・知人に預けた場合（71.4%）より13ポイント高くなっている。そのなかで「非常に困難」は、親が面倒をみる場合に30%強と親族・知人に預ける場合より17.5ポイントも高くなった。

【図 世帯構成別 子どもが病気の時の対処方法（就学前児童）】



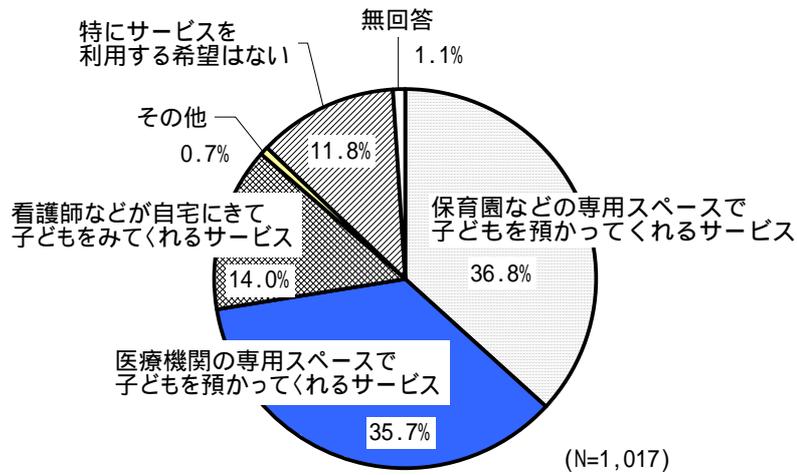
世帯構成別にみると、ひとり親世帯（66.7%）では「父親または母親が仕事を休んだ」、二世帯世帯（52.8%）、三世帯世帯（53.9%）では「就労していない保護者が自宅のみ」が高くなっている。

【図 世帯構成別 対処の困難度（就学前児童）】

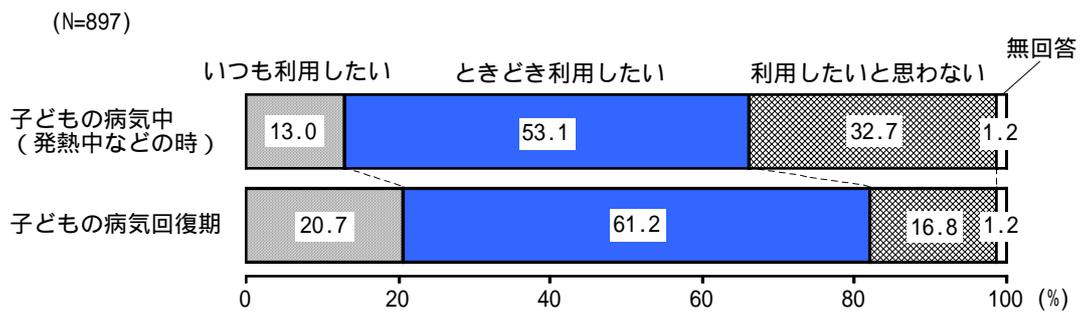


世帯構成別にみると、父親または母親のみた場合、親族・知人に預けた場合とも、ひとり親世帯の全数（100.0%）が「非常に困難」「どちらかという困難」と回答している。

【図 希望する病児・病後児保育の形態（就学前児童）】



【図 病児・病後児保育の利用希望頻度（就学前児童）】

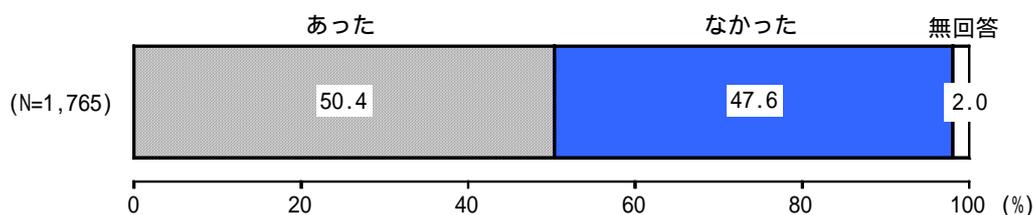


希望する病児・病後児保育の形態をみると、「保育所などの専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」(36.8%)と「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」(35.7%)が多くなっており、「看護師などが自宅にきて子どもをみてくれるサービス」は14.0%となっている。

病児・病後児保育を利用したい人(「いつも利用したい」「ときどき利用したい」の合計)は、子どもの病期中が66.1%、子どもの病気回復時が81.9%と病気回復時の利用希望が非常に多いのが分かる。

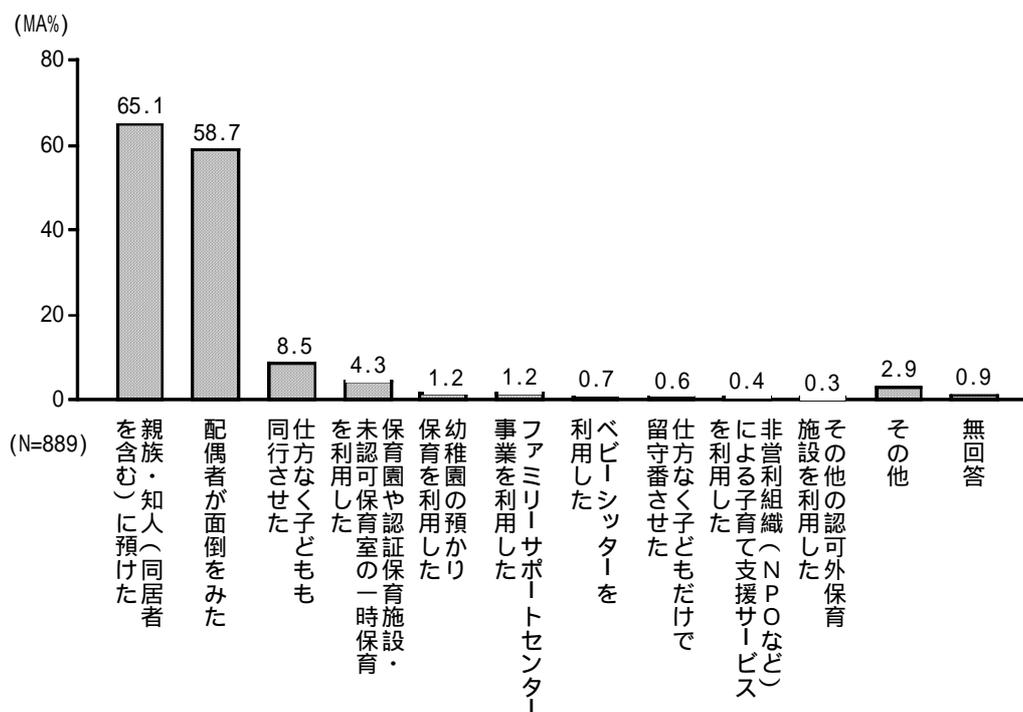
緊急の用事や私用で子どもをみられなくなった場合の対応とニーズ（就学前 問 22～23）

【図 急用等で子どもをみられなくなったこと（就学前児童）】



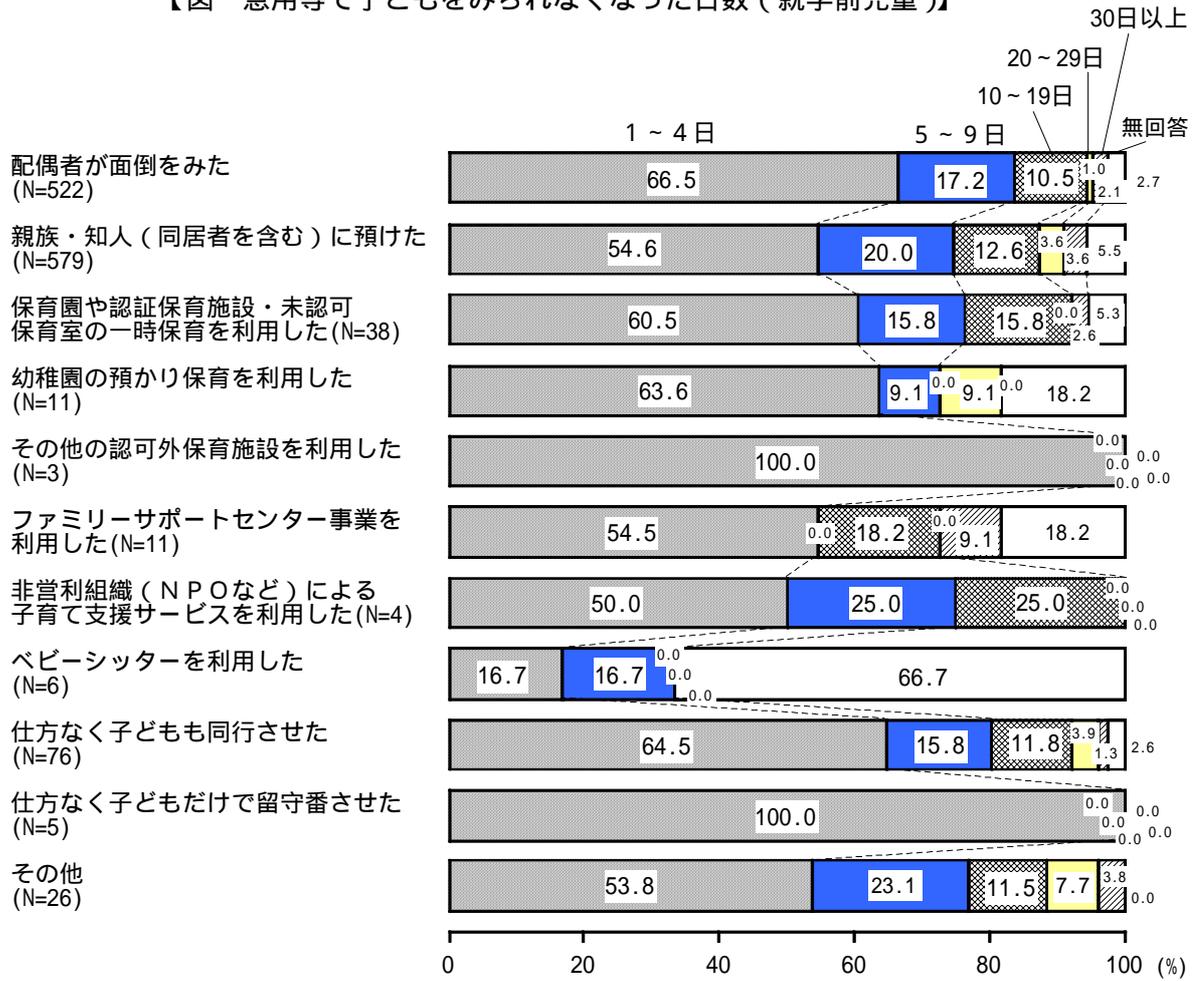
急用で子どもの面倒をみられなくなったことの有無をたずねたところ、「あった」が50.4%、「なかった」が47.6%であった。

【図 急用等で子どもをみられなくなった時の対処方法（就学前児童）】



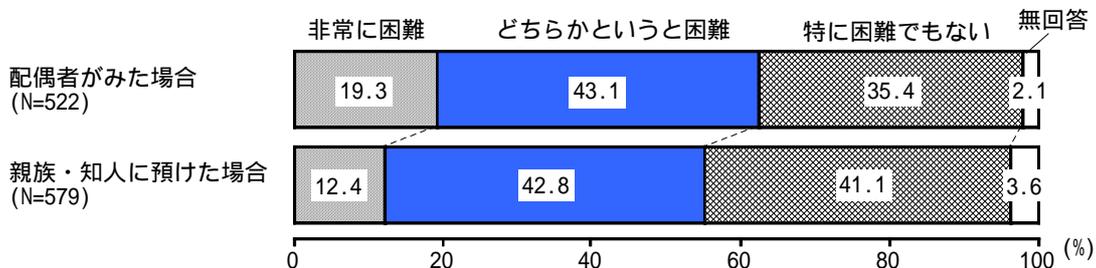
急用等で子どもをみられなくなった時の対処方法をみると、「親族・知人（同居者を含む）に預けた」が65.1%と最も多く、次いで「配偶者が面倒をみた」（58.7%）の順となっている。

【図 急用等で子どもをみられなくなった日数（就学前児童）】



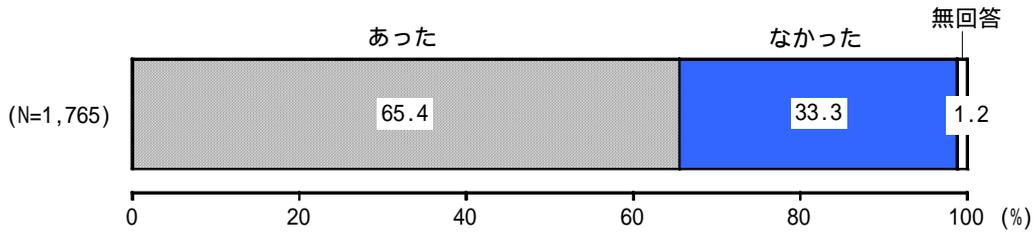
急用の際、対処に費やした日数をみると、ベビーシッターの利用を除き「1～4日」が最も多くなっている。

【図 対処の困難度（就学前児童）】



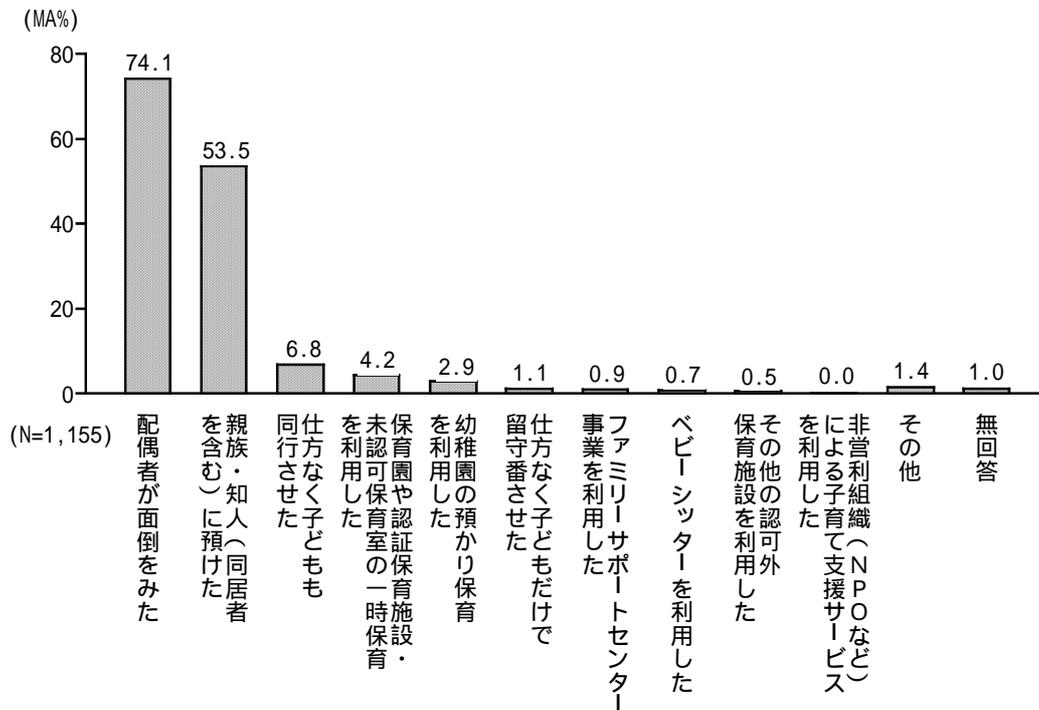
困難度をみると、「困難」（「非常に困難」「どちらかという困難」の合計）は、配偶者が面倒をみた場合が62.4%、親族・知人に預けた場合が55.2%となっている。

【図 私用で子どもをみられなくなったこと（就学前児童）】



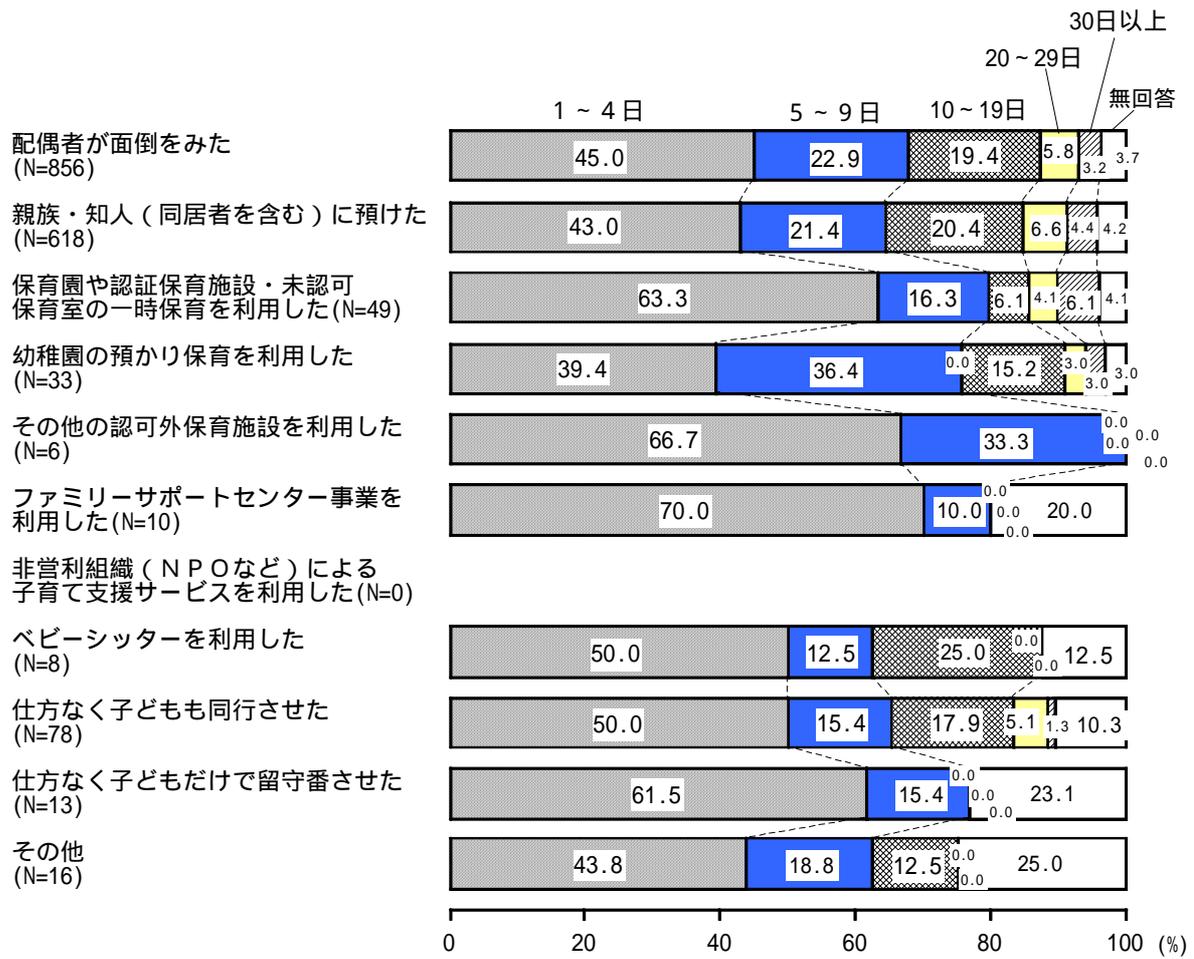
私用で子どもの面倒をみられなくなったことの有無をたずねたところ、「あった」が 65.4%となっている。

【図 私用で子どもをみられなくなった時の対処方法（就学前児童）】



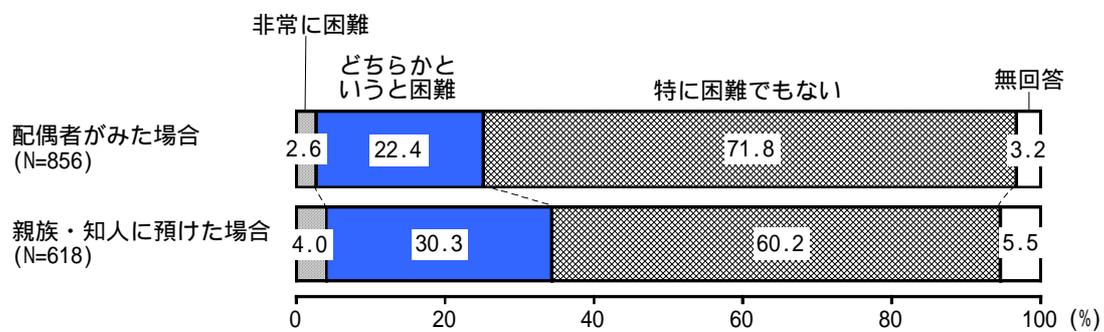
私用で子どもの面倒をみられなくなった時の対処方法をみると、「配偶者が面倒をみた」が 74.1%と最も多く、次いで「親族・知人(同居者を含む)に預けた」(53.5%)となっている。

【図 私用で子どもをみられなくなった日数（就学前児童）】



私用で面倒をみられなくなった日数を対処方法別にみると、いずれのケースでも「1～4日」が最も多くなっているが、幼稚園の預かり保育とその他の認可外保育施設では「5～9日」も比較的多くなっている。

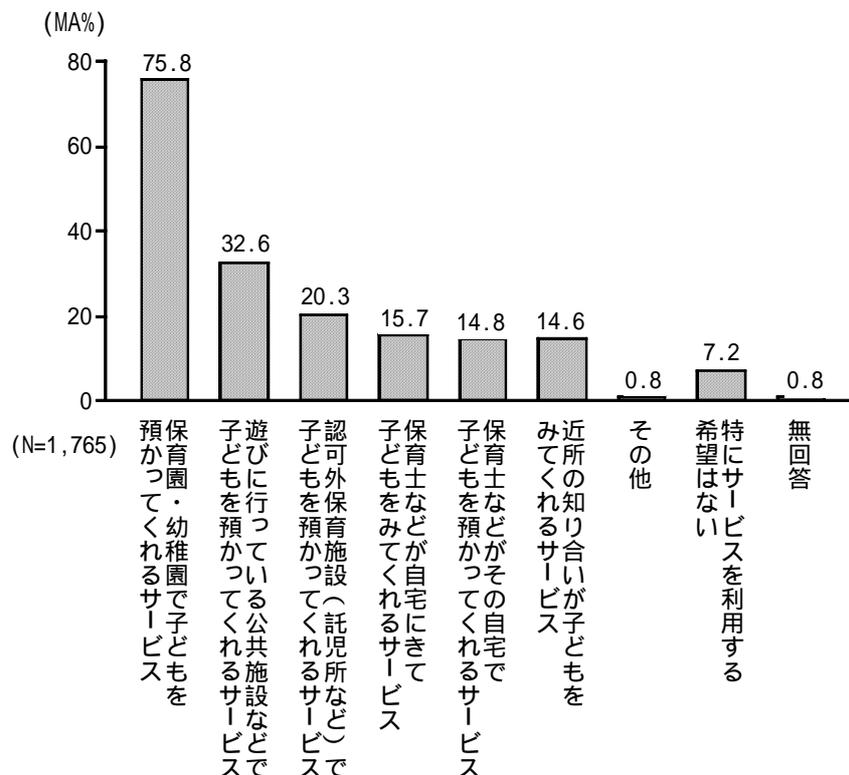
【図 対処の困難度（就学前児童）】



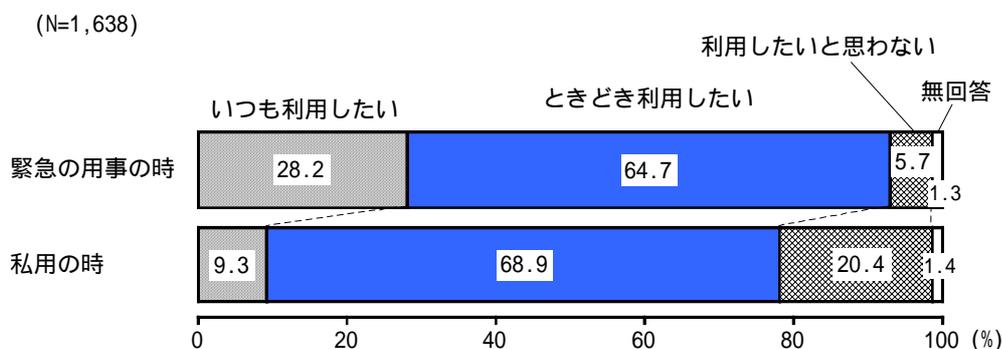
対処の困難度をみると、「困難」（「非常に困難」「どちらかという困難」の合計）は、配偶者がみた場合（25.0%）に対して、親族・知人に預けた場合が34.3%と高くなっている。

希望する一時保育の形態と頻度（就学前 問24）

【図 希望する一時保育サービスの種類（就学前児童）】



【図 一時保育サービスの利用希望頻度（就学前児童）】

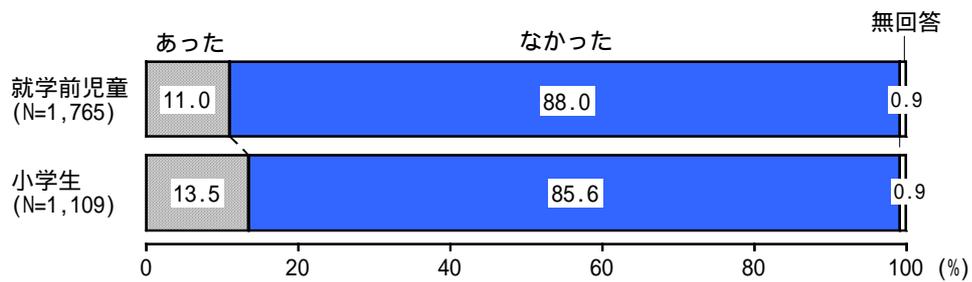


日中一時的に子どもを預けたいサービスについてみると、「保育所・幼稚園で子どもを預かってくれるサービス」が75.8%と最も多く、次いで「遊びに行っている公共施設などで子どもを預かってくれるサービス」(32.6%)となっている。

一時的に子どもを預けたいサービスの利用希望をみると、「利用したい」(「いつも利用したい」「ときどき利用したい」の合計)は、緊急の用事の時で92.9%とかなり多くなっており、私用の時でも78.2%を占めている。なお、「いつも利用したい」と答えた人は、緊急の用事の時で28.2%と相対的に多くなっている。

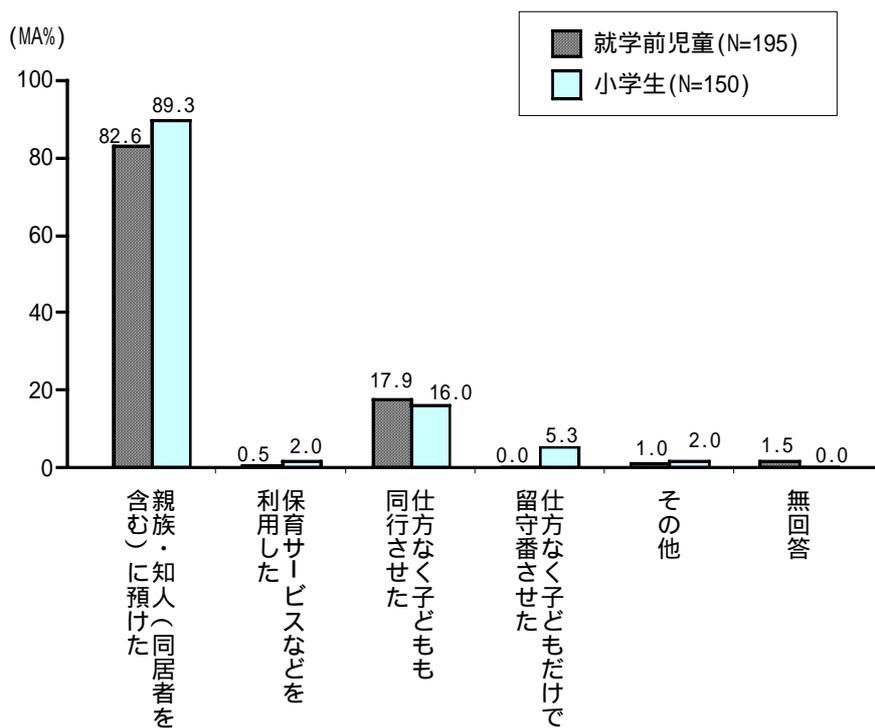
泊りがけで子どもを預けなければならなくなった場合の対応とニーズ（問25・19）

【図 泊りがけで子どもを預けなければならなくなったこと】



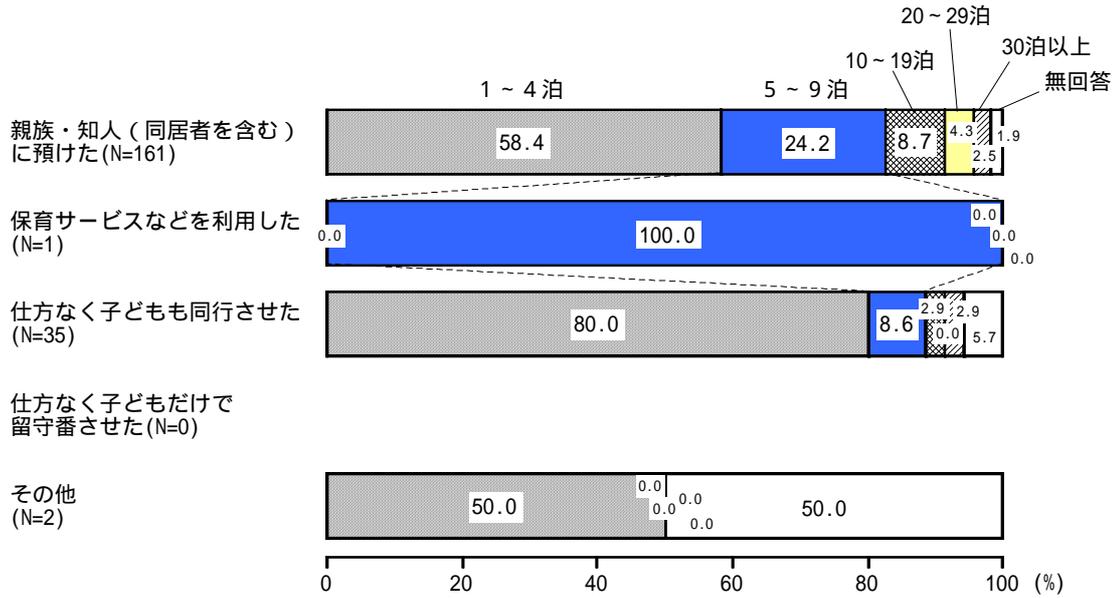
泊りがけの用事などで子どもを同伴させることが困難になったことの有無をたずねたところ、「あった」は就学前児童 11.0%、小学生 13.5%であった。

【図 泊りがけで子どもを預けなければならなくなった時の対処方法】

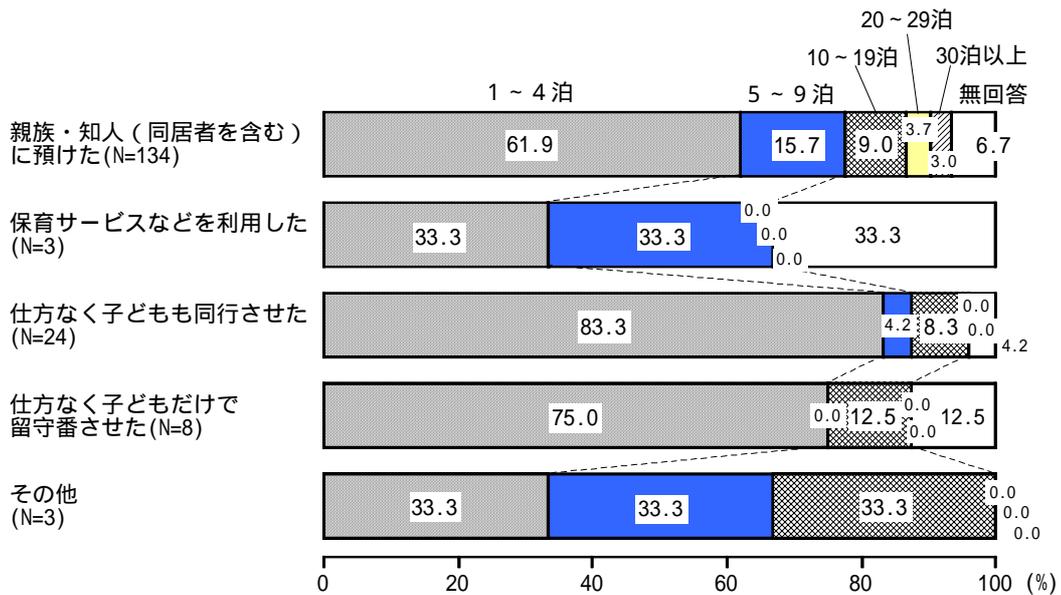


子どもを泊りがけで家族以外に預けた時の対処方法をみると、就学前児童（82.6%）、小学生（89.3%）ともに「親族・知人（同居者を含む）に預けた」が80%台と最も多くなっている。

【図 泊りがけで子どもを預けなければならなくなった日数（就学前児童）】

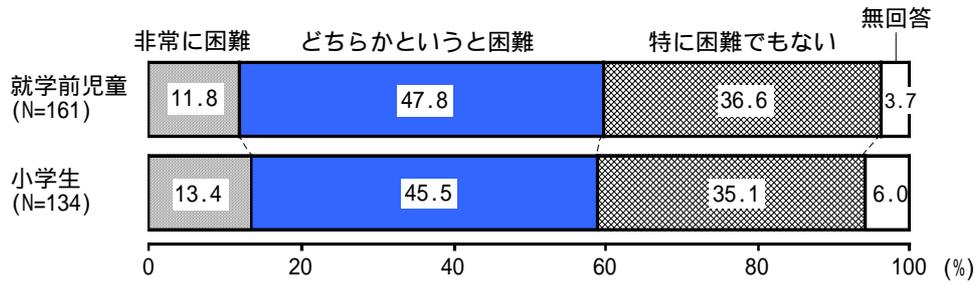


【図 泊りがけで子どもを預けなければならなくなった日数（小学生）】



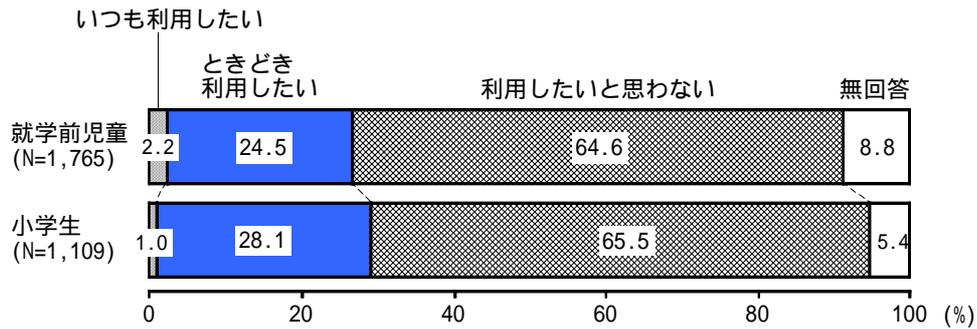
泊りがけの用事で子どもを預けた日数を対処方法別にみると、就学前児童、小学生ともに保育サービスなどを利用した場合以外は「1～4泊」が最も多くなっている。

【図 親族・知人に預けた場合の困難度】



親族・知人に預けた場合の困難度をみると、「困難」（「非常に困難」「どちらかという困難」の合計）は、就学前児童で59.6%、小学生で58.9%となっている。

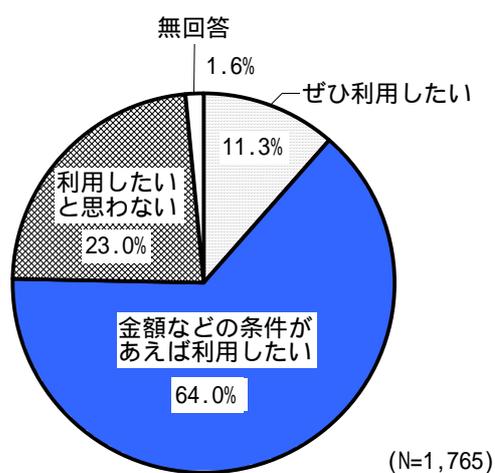
【図 ショートステイの利用希望頻度】



ショートステイを利用したい人（「いつも利用したい」「ときどき利用したい」の合計）は、就学前児童26.7%、小学生29.1%となっている。

産後ホームヘルパーの利用意向（就学前 問26）

【図 産後ホームヘルパーの利用意向（就学前児童）】

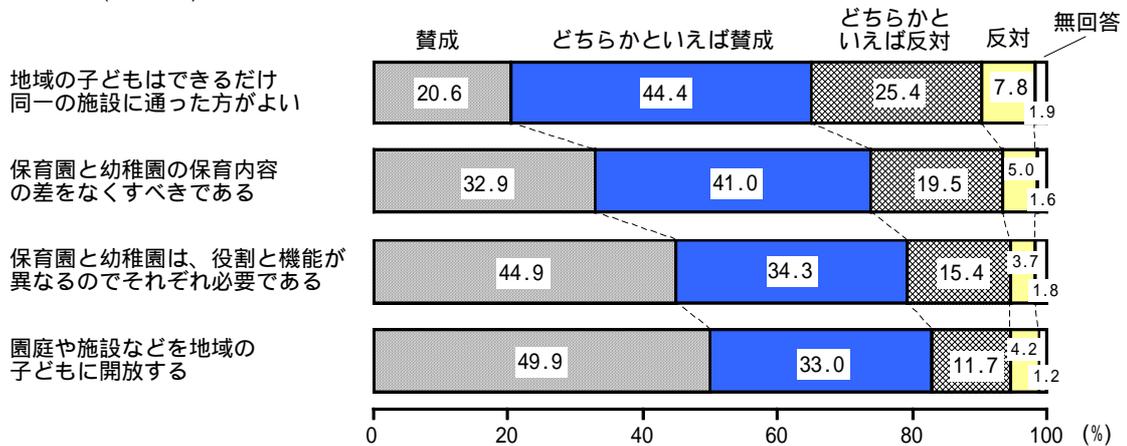


出産直後のホームヘルパーの利用希望をみると、「金額などの条件があれば利用したい」が64.0%を占め、「ぜひ利用したい」(11.3%)をあわせると75.3%を占める。

5 . 保育サービスなどについての考え
 (就学前 問 27)

【図 保育サービスなどについての考え (就学前児童)】

(N=1,765)



保育サービスに対する考えをたずねたところ、いずれの項目においても「賛成」(「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計)が過半数を占め、園庭や施設などを地域の子どもに開放する(82.9%)や 保育所と幼稚園は、役割と機能が異なるのでそれぞれ必要である(79.2%)で 80%前後と多くなっている。それに対し、「反対」(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)は全般的に少ないものの、地域の子どもはできるだけ同一の施設に通った方がよい(33.2%)が 30%を超えている。